

## 審査論文の要旨

本論文は、東大寺を中心に考古学的な成果を用いて伽藍造営や法会執行について検討しようとした論文で、申請者の永年にわたる調査と研究を集大成したものである。東大寺境内は、先学による境内の調査とともに、防災工事などに伴う発掘調査の成果も加わり、考古学的な資料に恵まれている。それらは、断片的ではあるが、瓦や土器といった年代を明らかにしやすい資料も多く、その整理を通して寺院の造営の実態解明に寄与が可能である。さらに、出土した瓦を軸に、東大寺の造営と深い関わりをもつ他の寺院の造営についても検討に道が開け、奈良時代の寺院造営の基軸となすことができる。本書では、東大寺の創建前の状況から、創建期、さらに維持や再興の状況も視野に入れて、関係の深い諸寺を合わせて議論することにより、立体的な古代仏教像を描こうとしている。そして、燈明皿に注目することから、燃燈や悔過といった法会の実態にも論及した。文献記録を参照しながら、それだけでは届かない法会の実態を解明しようとした点も本書の重要な達成とすることができる。

まず、序章において、本書のねらいを示し、考古学研究の可能性について触れている。

次の第1部は、東大寺創建前夜とし、第1章では春日山中に存在した香山堂をとりあげ、香山堂で採集された瓦についておもに年代的に整理し、史料にあらわれる山房の記事との照合をおこなった。その結果、天平7年以降に薬師に関する経典の新訳がもたらされ、その研究の進展をはかるべく創設された寺院が香山堂であることを明らかにした。第2章においては、東大寺上院地区にある千手堂についてとりあげ、やはり採集されている瓦の検討から、盧遮那仏を祀った銀堂であることを考察した。稀少な三彩瓦がこの仏堂で用いられたことを述べ、史料にみえる「玉粧」にあたるとした。

第2部は東大寺創建期の様相とし、第1章に東大寺境内の発掘成果をとりあげる。法華堂、指図堂、公慶堂などの堂舎で大仏殿創建以前の遺構や遺物が発見されていることを丁寧述べている。その中で、とくに第2章では、東大寺境内で興福寺式軒瓦が出土することをとりあげ、興福寺との関係をもちつつ東大寺の前身寺院の創建が開始したこと、また東大寺独自の興福寺式瓦があり、加守寺など他の寺院にも供給されていることを明らかにした。第3章では、当麻寺境内から出土した奈良時代の瓦を取り上げ、その年代的な検討と近江の保良宮推定地の瓦との比較から、藤原仲麻呂政権下で淳仁天皇の母の氏族寺院である当麻寺が東大寺式の瓦を用いて整備されたと位置づけた。これまでの研究よりも具体的に仲麻呂政権と当麻寺の関係を浮かび上がらせた点で注目される。

第3部は東大寺の維持と再興として、戒壇院を中心にその創始と展開を跡づけている。戒壇院の発掘調査から、東大寺大仏殿の伽藍のミニチュア版であり、その展開が東大寺の消長を代表できる例になることを示したうえで、創建期における唐招提寺との関係、再興期における勧進僧との関係などを、瓦を通して解明しようとした。

第4部は東大寺法会の考古学的検討として、第1章は大仏造営時の東大寺の遺構を取り上げた。紫香樂と東大寺の鑄造遺構を比較検討し、よく似た形状であることを示した。次に、造営中の大仏を聖武天皇がみるために用いたとする大仏殿の前殿について、それに関

わるものと評価できる遺構を提示した。第2章と第3章ではいずれも燈明皿などの燃燈に関わる資料を用い、燃燈供養や悔過といった法会との関係を検討した。とくに、一夜あたりの油の使用量が1.5合から2合であることをふまえ、燈明皿に伴って出土する小型の壺が油の計量に用いられたとする見解を提示し、考古学的に燃燈を解明する方法に新たな視点を提示した。その上で、記録に残る千燈会や万燈会、悔過などを検討し、燃燈をとまなう法会が奈良時代に広範囲に普及していることを明らかにした。

以上のように、本論文は、考古資料に対する緻密な分析にもとづき、年代を解明する手がかりとする一方で、瓦であればその造瓦工場の展開過程、土器であれば法会における使用法などへと検討を進め、それと文献史料に基づく研究とを照合することによって、豊かな古代仏教史を描くことに成功しており、自身が仏教者として仏教に深い理解をもつことも背景にあり、より精度の高い研究に昇華することができたと評価できる。

## 論文審査結果の要旨

本論文について、平成30年2月15日午後2時半から5時にわたり、京都府立大学付属図書館グループ研究室1において公開審査会を実施した。最初に概要の発表があり、その後、審査委員による質疑がおこなわれた。質疑のおもな内容は、以下の通りである。

### 【第一部】

- ①漢字の新字体と旧字体とが用いられるが使い分けの意図は？
- ②史料に現れる「山房」がどこを指すのかの証明がかけているのではないか？
- ③瓦から建築構造の違いを述べているが、それは可能か？

### 【第2部】

- ④興福寺式軒瓦が東大寺で出土することを藤原氏との関係としているが、そもそも瓦の文様にそこまでの評価をすることは可能か？
- ⑤瓦からみた当麻寺曼荼羅堂の年代が建築史の検討と齟齬する理由は？
- ⑥藤原仲麻呂と造東大寺司との関係は？

### 【第3部】

- ⑦平安時代後期の勸進僧の活動を瓦から検討すること自身は魅力的であると言えるが、たとえば蓮実に関係するとした瓦がその住房である東僧房から出土しないといった矛盾があるように感じられるが、どのように説明するのか？

### 【第4部】

- ⑧東大寺の前殿に関係するという遺構が示されているが、その発見場所が大仏殿からはかなり距離があり、想定が難しいのではないか？
- ⑨燃燈が屋外でおこなう庭儀か屋内の法会かといった違いを明確にすることが重要ではないか？